

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月21日

BMJ:

オミクロン株感染後のロングコロナリスクは、デルタ株よりも低いようだ

## 【松崎雑感】

昨日に続いて、ロングコロナの話です。オミクロン株感染によるロングコロナリスクは、デルタ株の半分から4分の1のようですが、感染力が強く患者数が多いオミクロン株が作り出すロングコロナ患者は実に多くなるという警告です。

人口が日本のおよそ半分のイギリスで、200万人のロングコロナ患者が存在すると推定されています。昨日紹介したNatureの記事で、ロングコロナの治療の重要性が強調されていたのはこのためです。ある感染症のアウト部位レイク後に100万人規模の後遺症患者が発生するという事は、重大なことです。

オミクロン株感染後のロングコロナリスクは、デルタ株よりも低いようだ

Wise J. Covid-19: Long covid risk is lower with omicron than delta, researchers find. *BMJ*. 2022;377:o1500. Published 2022 Jun 17. doi:10.1136/bmj.o1500

イギリスのZOEコロナアプリを用いた自己申告データに基づく調査の結果、オミクロン株感染者がロングコロナになるリスクは低いようだと言われた[1]。

キングズカレッジ・ロンドンの研究者らは、オミクロン株が主流株だった2021年12月20日から2022年3月9日の間に新型コロナ感染ありと診断された56003名のデータを、デルタ株が流行していた2021年6月1日から11月27日の感染者41361名と比較した。

オミクロン株流行期感染者の4.5%、2501名がロングコロナ症状（感染から4週以降の体調不良）を申告した。

一方デルタ株流行期感染者では10.8%、4469名がロングコロナ症状を申告していた。これらのデータはLancetに報告された。

オミクロン株のロングコロナを発症するオッズ比は、デルタ株の0.24~0.5倍となっていた（年齢、ワクチン接種後経過期間で異なる）。

しかし、オミクロン株感染者の実数はデルタ株感染者よりもずっと多いため、ロングコロナの実数はオミクロン株感染者の方が多いだろう。

国家統計局は、ロングコロナ患者数が2022年1月には130万人だったが、5月には200万人に増加したという推定値を今月初めに公表した[2,3]。

研究筆頭者のクレア・スティーブス氏は「オミクロン株感染によるロングコロナリスクは以前の変異株より相当低いが、感染者の23人に1人は体調不良が4週間以上経っても続くことが分かった。ロングコロナに悩まされている人々を職場、家庭、地域、そしてNHSがサポートする必要がある」と語った。

ZOEアプリ使用者は女性に若干多く、経済的下層の人々の参加が少なかったために、このデータをイギリス全体にそっくり適用することはできないが、デルタ期とオミクロン期の申告者の人口社会学的特徴はほぼ同じであり、ある程度の妥当性のある比較が可能である。

この調査は、幅広い症状を前向きに収集した点で優れているが、感染株の同定、症状の継続期間の客観的定義がないことが欠点である。

また、ワクチン未接種者のロングコロナ発病率が不明であり、小児が調査対象外だったことも不十分点である。

エクセター大学医学部のデビッド・ストrein氏は、これらのデータがオミクロン株 BA.1 流行期に得られた点に触れ、「国家統計局の調査結果は、最近流行しているBA.2 派生株は、ワクチンを3回接種済みの人々に対しても、デルタ株に匹敵するロングコロナリスクをもたらしている」と述べた。

オープン大学の名誉教授で応用統計学専門家ケビン・マコーンウェイ氏は「これらは自己申告に基づく、人口代表集団とは言えない集団を対象とした観察研究であるため、本当に因果関係があるのかどうかの問題となる。本当に重要なことは、感染者の実数である。オミクロン株感染者のロングコロナリスクが低いとしても、オミクロン株の感染者の絶対数が非常に多いため、ロングコロナ患者数はとても多くなる」と述べた。